

令和 6 年度 第 2 回奈良市社会教育委員会議 会議録				
開催日時	令和 7 年 2 月 4 日（火）午後 2 時～午後 3 時 3 0 分			
開催場所	奈良市役所 中央棟 B1 会議室			
出席者	委員	安藤委員、岡田和委員、岡田龍委員、加藤委員、紙家委員、小北委員、中村委員、能島委員、廣瀬委員【計 9 人出席】		
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、奈良市生涯学習財団事務局長		
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	担当課	教育部 地域教育課	
議題 又は 案件	(1) 令和 6 年度大会等参加報告 (2) 今後の社会教育について (3) その他			
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等				
(1) 令和 6 年度大会等参加報告 近畿地区社会教育研究大会（京都大会）、全国社会教育研究大会（茨城大会）、奈良県社会教育研究大会に出席された委員から報告があった。 【委員からの主な意見・質問等】 ・奈良市での開催でも委員 1 人しか参加していなかった。せっかく近くで実施しているので、より多くの委員と一緒に参加し他府県のように意見交換ができればよかった。 ・予算がついていないが自己研鑽のため出席したい場合行ってもよいか。旅費などはいいいので参加費（出席負担金）を市が負担してくれたら嬉しい。 →登録が必要となるので、事前に事務局にご相談いただきたい。 (2) 今後の社会教育について 現行の奈良市社会教育推進計画は令和 7 年度までの計画期間となっており、令和 8 年度以降の計画策定に向けて協議する必要がある。今後のスケジュール、めざす方向性及びアンケートについて協議した。 【委員からの主な意見・質問等】 〈めざす方向性〉 ・現行計画の基本目標や「まなび、つながり、ささえる」という方向性は理念であるのでこのままでいいと思う。ただもう少し具体的に細かい所を見ていく必要がある。 ・社会教育事業は、数値目標を立てて目標を達成したからできたと言いきにくい。それでも目標を設定しどう測るのかをある程度想定し進めていく必要がある。事業評価はこれまで				

もしてきたが、評価の指標があれば、市民も委員も変わったことが実感できると思うので、次期計画では考える必要があるのではないかな。

- ・市民参画指数や市民アンケートを活用した指標設定も良いのではないかな。すべての事業を定量化するのは現実的に難しいと思うが、例えば主要な重点的なものに対して設定してはどうか。

- ・前回の基本目標や「まなび、つながり、ささえる」という方向性について、継続していいのかをどう判断するのが難しい。何らかの指標が設定されないと、そもそも達成するしない以前の問題として、目標に近づいているのがわからない状況である。

- ・毎年の事業報告で担当課の評価を見ているとほぼ達成できたと評価している。市として、どのあたりが達成されていないと考えているのかを聞きたい。

→事業単位では達成できているが、相互の連携や、「つながり」や「ささえる」という部分については、もう少し取り組んでいける部分があると思う。

- ・各課から出てきた事業評価については、「まなび、つながり、ささえる」といった1個ずつは達成していても、本来社会教育としては、まなびからどうささえ、つながるのか、ささえたところでどうまなびを得るのかといった部分が少し抜けていたのではないかなと思った。

- ・基本計画のめざす姿「まなぶ、つながる、ささえる」に関しては、本来はこれが循環していくことを想定してこの3つを設定したと思う。

- ・次の5年に向けてどういう評価を立てられるかが本来課題である。

- ・行政の中の社会教育予算としてついている事業が社会教育事業とは限らない。もっと網羅的に学びに繋がるような事業を集め、各課がどんな評価をするのかを確認し、これだけ学習機会提供されていることを確認して促進したのが前計画である。次の5年は、実現していくためにどのように社会教育が働きかけていけるのかも含めてこの会議で考えていく必要がある。当初この計画では各事業の報告評価した際に、教育委員会以外の課長が出席し報告した。市全体で生涯学習の取り組みが繋がっていくことを市職員も含めて認識できたことが一つの成果だったのではないかな。

〈アンケート〉

- ・本当は人と人の結びつきがどうなったかをアンケートで解明しようとする、教育委員会の域を超えて市が市民調査をせざるをえなくなるが、それは教育委員会の域を超えている。結局、社会教育顧客である利用者の声から何か反映できることはないかを聞かざるをえない。そのため方向性のアウトカム評価指標をアンケートからだけで導き出すのはおそらく難しい。だから違う指標を探していく必要がある。アンケートを実施するならこの問いがどう我々に有効なのか、どうアンケート結果を反映させて使うのかを考えて設定する必要がある。

- ・アンケートのねらいを明確にするべきだと思う。前回もアンケート内容と計画の内容に整合性が見られない。ねらいを明確にした上で、こういった調査項目が適切であるのかについては検討する必要があると感じた。

- ・市民意識調査にアンケート項目を追加することができないかな。

- ・教育委員会が全てを網羅するのは難しいと思うため、市民意識調査やそれぞれの部署、アンケートを実施されていると思われるので、その中で社会教育に関するご意見がないか調べてほしい。

・計画を作ることも大事だが、それよりもどう使っていくのかを考えないといけない。何かの目標値を設定すれば見ざるをえなくなる。日頃取り組んでいることとこの計画が結びついて捉えられていない所があり、奈良市の社会教育というものの自体が何をめざしているのか、そこに向けて何をしたいのかははっきり見えていないところが一番問題かもしれない。

・前回アンケートの回答数がすくない。内容を見て細かいと思ったので、もっとわかりやすく、誰が見ても理解できるようなアンケート内容にしたほうが返ってくると思う。昨今は何でも QR コード読み込みが多い。

・アンケート項目は絞っていく必要もあるので、事務局でたたき台を作成してもらって、次の会議で意見を出す形でよいのではないかな。

・次期教育大綱、次期教育振興基本計画も本計画は関わってくるので、この計画だけを改訂する訳にもいかない。

・今日の協議では方向性を変えて一から作ろうという話ではない。この方向性で進めて、次の5年間を考えていこうと思う。次回会議ではデータを整理していただいて、事務局の方で計画のでき上がり形、想定みたいのを示して頂けると、どこへ向かっていったらいいのか見えやすくなると思う。

→1年間でアンケートの分析も必要なため、整理がつき次第メール等で共有させて頂きご意見を頂くなど、前倒して進めていきたい。

資 料	・令和6年度 第2回奈良市社会教育委員会議次第 ・令和6年度 奈良市社会教育委員名簿 ・資料1「令和6年度大会等参加報告」 ・資料2「今後の社会教育について」
-----	--